

天王地区遺跡確認調査概要

— 大阪府営中山間地域総合整備事業「天王地区」の調査 —

大阪府教育委員会

平成14年3月31日

1. はじめに

今回遺跡確認調査を実施した豊能郡能勢町天王地区は、大阪府の北西端部、北を京都府船井郡園部町、西を兵庫県篠山市、南を兵庫県川辺郡猪名川町と接している。地形的に見ると、東の能勢町山辺地区との距離約7km、標高差約310m、西の篠山市福住地区との距離約6km、標高差約270mを測る北摂山地内に存在する標高520m前後の山間小盆地に立地している。

天王地区は、東西約2.6km、南北約0.1kmを測る細長い山間小盆地を中心とする地域で、その地区内を、西流方向から当該地区西端で南流方向に変わる猪名川の支流である天王川が蛇行を繰り返しながら流れている。天王川には、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息し、その生息環境を保護するために様々な措置が執られている。

能勢町天王地区内の遺跡については、今回の遺跡確認調査で新たに遺跡が発見される以前には、地区内の中央西、南側の山塊から派生する支脈上に、天坪遺跡と命名された中世の居間跡と推定される平坦地が知られていたのみであり、本格的な調査は今回が初めてである。

今回の調査は、本府環境農林水産部の依頼に基づき、大阪府営中山間地域総合整備事業「天王地区」に伴って実施したものである。

調査は、大阪府教育委員会が、平成13年12月から平成14年1月にかけて実施した。

調査にあたっては、大阪府環境農林水産部整備課、大阪府北部農と緑の総合事務所池田分室、能勢町教育委員会、地元自治会、天王地区土地改良区、重金 誠氏（能勢町教育委員会）などの諸機関、諸氏より懇切な協力、援助を受けた。

2. 調査の概要

圃場整備対象予定地域全域に、遺跡の有無を確認するために基本的に約2×3m、深さ0.6m前後を測る遺跡確認トレンチを23箇所設置し、人力による掘削を行い遺構・遺物の発見に努めた。その結果、新規発見の遺跡3箇所を確認した。

調査結果の概要については、調査対象地域のほぼ中央西に存在する天坪遺跡を境として、東部東地区、東部西地区、西部東地区、西部西地区の4地区に分け説明を行った。

(1) 東部東地区

天王地区の最も東側に位置し、集落から最も離れた地域である。その範囲内に第17から20までの4個所の遺跡確認トレンチを設定し掘削した。これらのトレンチからは、全く遺構・遺物が検出されなかったことから、周辺には遺跡が存在しないと判断した。

(2) 東部西地区

天王地区の中央から東側に位置し、ほぼ天王地区の集落の東端付近にあたる。その範囲内に第13から16までの4個所に遺跡確認トレンチを設定し掘削した。

それらの中で、遺跡が存在する可能性が最も高いと判断したのは、天王川に合流する小河川の東側、北方向から派生する尾根の縁辺部に設定した第16トレンチのみである。出土した遺物は、瓦器（6・7）、土師器などで、時期は中世と推定される。遺跡の範囲は、地形および周辺に設定した遺跡確認トレンチの状況から、南側に存在する天王川の旧氾濫源と小河川に挟まれた東西約120m、南北約100mの狭い範囲内に単独で存在しているものと推定される。

遺跡名は、周辺の字名から能勢町教育委員会と協議の上、湯田遺跡とした。

また、遺跡の範囲がこの周辺にまで及んでいる可能性があるかと判断して天坪遺跡東側の丘陵縁辺部に設定した第13トレンチからは、水田造成時の盛土内から近世陶磁器の破片に混じって、中世と推定される土師器小皿が出土したが、遺物包含層に相当する層が存在しないこと、地山面に遺構が存在しなかったことから遺跡がこの周辺にまでは及んでいないものと判断した。

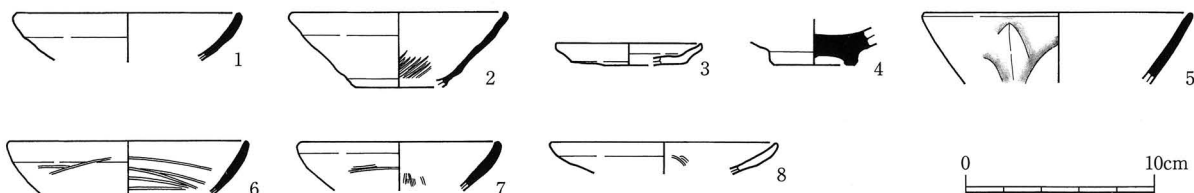
(3) 西部東地区

天王地区の中央から西側に位置し、天王地区の集落の中心部にあたる。その範囲内に、第5から12・21・22の10箇所に遺跡確認トレンチを設定し掘削した。

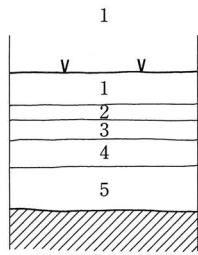
それらの中で遺跡が存在する可能性が最も高いと判断したのは、天王川に合流する小河川の東側、北方向から派生する尾根の縁辺部に設定した第11トレンチである。出土遺物は、図化は細片で出来なかったが、瓦器、土師器などで、時期は中世と推定される。第11トレンチの南側に設置した第9・10・21トレンチからは、遺物（4）は出土するものの、遺物包含層に相当する層が存在しないこと、地山面に遺構が存在しなかったことから、遺跡がこの周辺にまで及んでいないものと判断した。これらから遺跡の範囲は、東西約100m、南北約90mと推定される。

遺跡名は、周辺の字名から能勢町教育委員会と協議の上、大道遺跡とした。

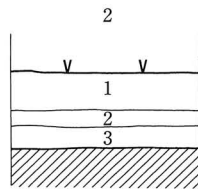
当初、地形的に見て遺跡が存在する可能性が最も高いと推定していた、南側の丘陵緩斜面上に設定した第6・7・8トレンチからは、第6トレンチから瓦器の細片1片が耕土中より出土



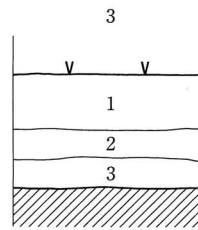
出土遺物（1～3 第4トレンチ、4 第10トレンチ、5 第12トレンチ、6・7 第16トレンチ、8 第23トレンチ）



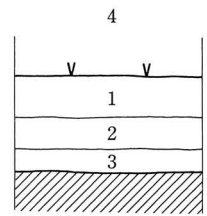
- 1. 耕土
- 2. 2.5Y 7/6 明黄褐色砂質土層(床土)
- 3. 10YR 4/1 褐灰色粘質砂土層
- 4. 10YR 5/3 におい黄褐色粘質砂土層
- 5. 2.5Y 6/4 におい黄色砂質土層



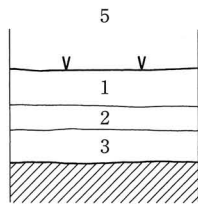
- 1. 耕土
- 2. 10YR 5/4 におい黄褐色砂質土層(床土)
- 3. 10YR 4/1 褐灰色粘質土層



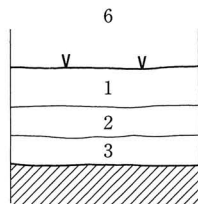
- 1. 耕土
- 2. 2.5Y 6/6 明黄褐色砂質土層(床土)
- 3. 10YR 4/4 褐色粘質土層



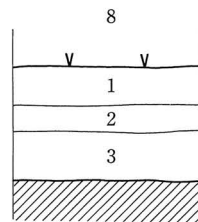
- 1. 耕土
- 2. 2.5Y 6/6 明黄褐色砂質土層(床土)
- 3. 2.5Y 4/2 暗灰黄色粘質土層



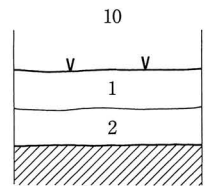
- 1. 耕土
- 2. 2.5Y 6/6 明黄褐色砂質土層(床土)
- 3. 2.5Y 5/2 暗灰黄色砂質土層



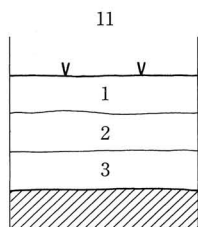
- 1. 耕土
- 2. 2.5Y 6/6 明黄褐色砂質土層
- 3. 2.5Y 4/2 暗灰黄色砂質土層



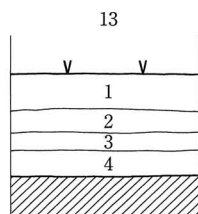
- 1. 耕土
- 2. 2.5Y 6/4 におい黄色砂質土層(床土)
- 3. 2.5Y 5/4 黄褐色砂質粘土層



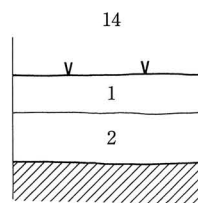
- 1. 耕土
- 2. 10YR 6/6 明黄褐色砂質土層(床土)
- 3. 10YR 5/3 におい黄褐色砂礫層



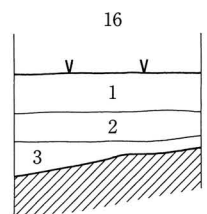
- 1. 耕土
- 2. 2.5Y 6/4 におい黄色砂質土層(盛土)
- 3. 10YR 3/2 黒褐色粘質土層



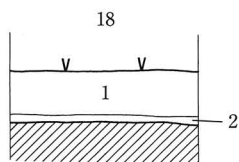
- 1. 耕土
- 2. 10YR 6/6 明黄褐色砂質土層
- 3. 10YR 5/2 灰黄褐色粘質砂土層
- 4. 10YR 4/3 におい黄褐色粘質砂土層



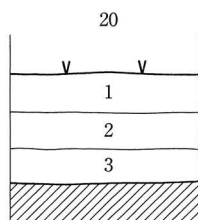
- 1. 耕土
- 2. 10YR 5/1 褐灰色粘質砂土層



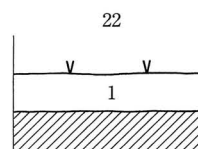
- 1. 耕土
- 2. 10YR 3/2 黒褐色砂質土層(床土)
- 3. 10YR 3/1 黒褐色砂質土層



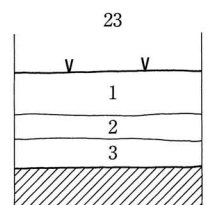
- 1. 耕土
- 2. 10YR 6/6 明黄褐色砂質土層(床土)



- 1. 耕土
- 2. 5Y 5/1 灰色砂質土層(盛土)
- 3. 2.5Y 5/2 暗灰黄色砂質土層(盛土)



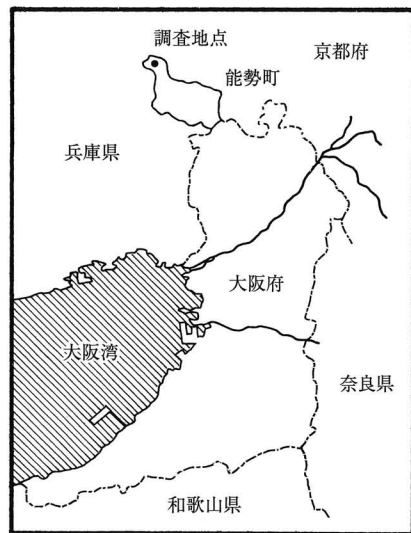
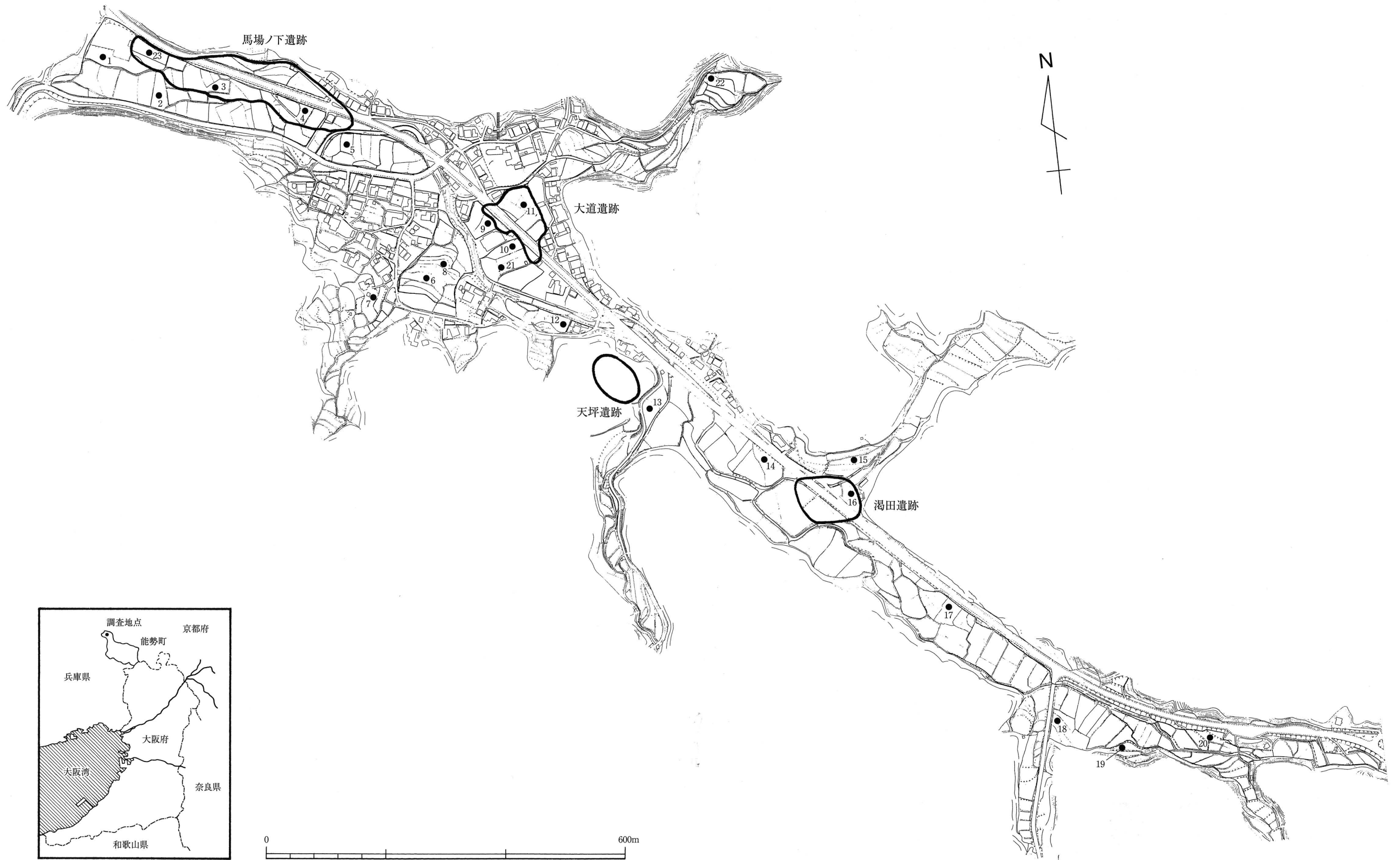
- 1. 耕土



- 1. 耕土
- 2. 10YR 6/8 明黄褐色砂質土層(床土)
- 3. 10YR 2/2 黒褐色粘質砂土層



遺跡確認調査トレンチ土層断面図

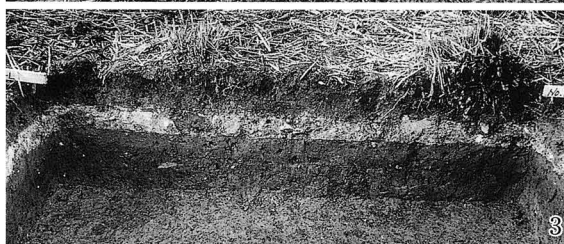
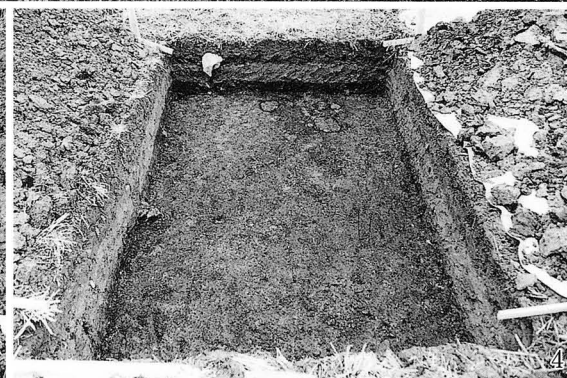


遺跡確認調査位置図

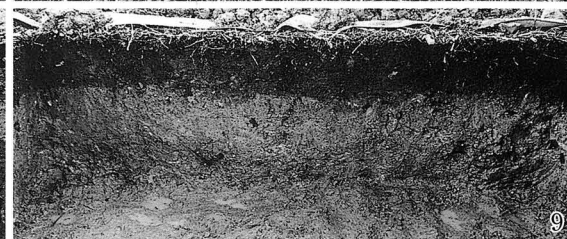
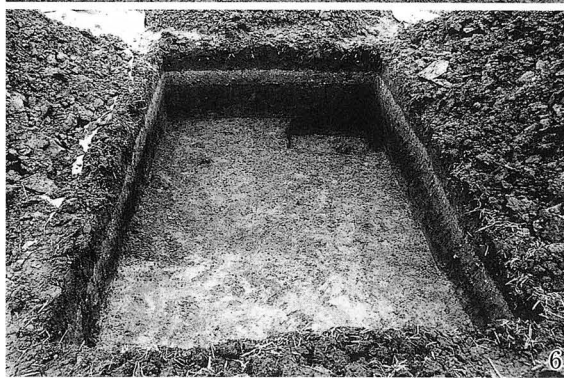
1. 調査地全景
(西端から)



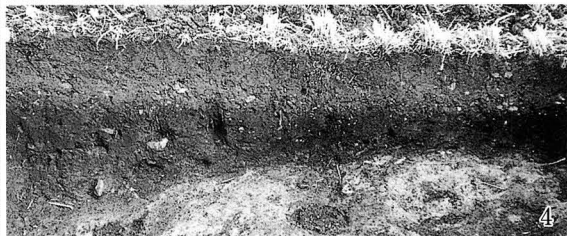
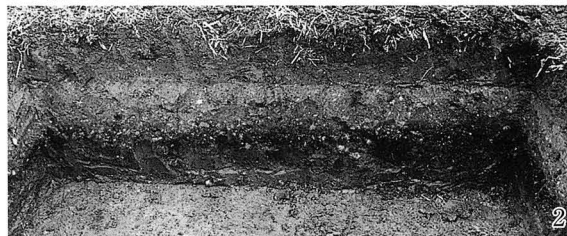
2. 第1トレンチ
3. 第1トレンチ断面
4. 第3トレンチ
5. 第3トレンチ断面



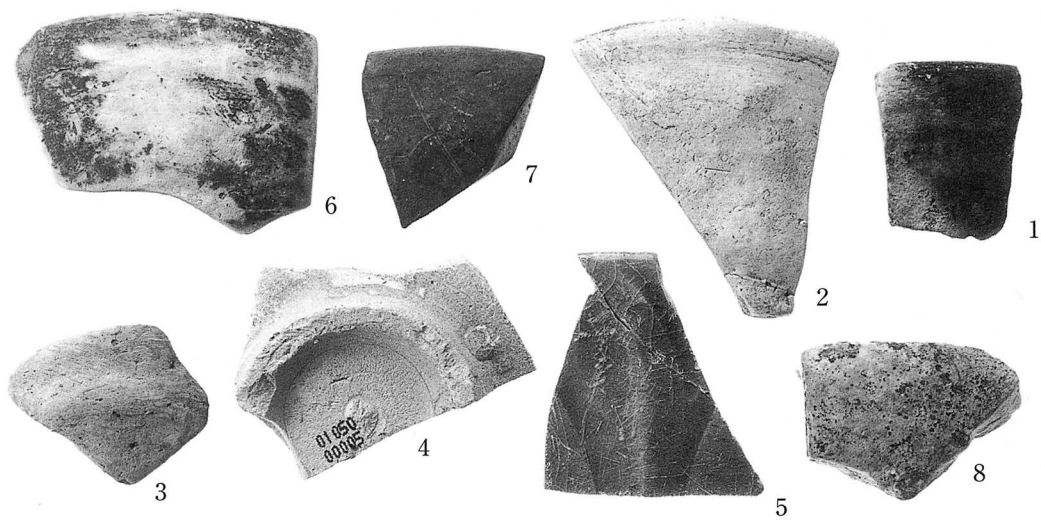
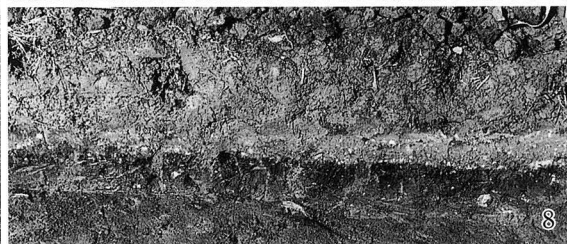
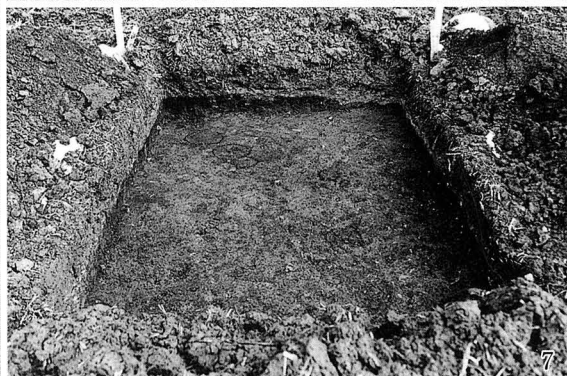
6. 第4トレンチ
7. 第4トレンチ断面
8. 第8トレンチ
9. 第8トレンチ断面



- 1. 第11トレンチ
- 2. 第11トレンチ断面
- 3. 第16トレンチ
- 4. 第16トレンチ断面



- 5. 第19トレンチ
- 6. 第19トレンチ断面
- 7. 第23トレンチ
- 8. 第23トレンチ断面



9. 出土遺物

したのみで、遺構は全く存在しなかった。これらのことから、この周辺には遺跡が存在しないものと判断した。また、天坪遺跡西側に設定した第12トレンチからは、遺物（5）は出土するものの土層断面観察の結果、谷の埋積谷にあたる堆積状況を呈していたため、遺跡ではないと判断した。

（4）西部西地区

天王地区の最も西側に位置する。その範囲内に、第1から5・23の6箇所に遺跡確認トレンチを設定し掘削した。これらの中で遺構・遺物を検出したのは、北方向から派生する尾根の縁辺部周辺に設定した第3・4・23トレンチである。出土遺物は、瓦器、土師器（3・8）などで、時期は中世と推定される。また、同じ丘陵縁辺部に設定した第1トレンチ、天王川の氾濫源に設置した第2トレンチからは、遺構・遺物が検出されなかったため遺跡の範囲外と判断した。これらから遺跡の範囲は、東西約400m、南北約100mと推定される。

遺跡名は、周辺の字名から能勢町教育委員会と協議の上、馬場ノ下遺跡とした。

3. まとめ

今回の遺跡確認調査は、能勢町天王地区で行われた初めての発掘調査で、天坪遺跡以外に新規発見の遺跡が3箇所加わり、大きな成果を挙げることが出来た。これらの遺跡は、分布状況から旧街道に沿って存在するものと推定され、水田内だけではなく、現在の所遺跡の範囲外に存在する現集落内にまで遺跡の範囲が及ぶものと予測される。特に大道遺跡と馬場ノ下遺跡については、地形的に見てひとつの遺跡になる可能性が高い。これら新たに発見された3遺跡の時期は、出土遺物から中世を中心とする時期で、それ以前の遺物・遺構は発見されなかった。このことから、この地がこの時期になって開発されたことを物語っている。

報告書抄録

ふりがな	てんのうちくいせきかくにんちょうさがいよう							
書名	天王地区遺跡確認調査概要							
副書名	大阪府営中山間地域総合整備事業「天王地区」の調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	奥 和之							
編集機関	大阪府教育委員会 文化財保護課							
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06-6941-0351							
発行年月日	2002年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かわたいせき 湯田遺跡			209	135° 21' 43"	35° 01' 48"	2001年12月～ 2002年1月	138	府営中山間地 総合整備事業 (天王地区)
はよのしたいせき 馬場ノ下遺跡	とよのぐんのせちよう 豊能郡能勢町	27322	210	135° 21' 43"	35° 02' 05"			
たいどういせき 大道遺跡	てんのうちない 天王地内		211	135° 21' 57"	35° 01' 48"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
湯田遺跡 馬場ノ下遺跡 大道遺跡	集落跡	中世	柱穴等	瓦器 土師器 青磁 須恵器				

これらのように、今回の調査によって、大きな成果を挙げることが出来た。今後、圃場整備工事に伴う発掘調査を行うことによって、この小盆地内の遺跡の状況がさらに明らかになるであろう。

天王地区遺跡確認調査概要	
—大阪府営中山間地総合整備事業「天王地区」伴う調査—	
発行	大阪府教育委員会 〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目 TEL. 06-6941-0351
発行日	2002年3月29日
印刷	株式会社 中島弘文堂印刷所 大阪市東成区深江南2-6-8 TEL. 06-6976-8761